

あいさつ

平田 直（防災科学技術研究所 首都圏レジリエンスプロジェクト総括 /
首都圏レジリエンス研究推進センター センター長）

改めまして、本日のシンポジウムの主催者を代表して、防災科研の平田からごあいさつさせていただきたいと思えます。

ただ今、福田様よりご説明がありましたように、本日のシンポジウムは、防災科研が文部科学省の補助事業「首都圏を中心としたレジリエンス総合力向上プロジェクト」の一環として行っているデータ利活用協議会（デ活）の公開シンポジウムです。2年ほど前まではリアルな会場で皆さまと対面のシンポジウムを実施していましたが、昨年度からは完全なオンライン方式で実施しています。これは新型コロナウイルス感染症対策で始めたことですが、いわゆるニューノーマル（新しい生活様式）の一つとして、時間と空間を超越し、遠方の方にも参加していただき、参加者を増やすことにも貢献していると思っています。

当初、私たちの研究は、地震災害の軽減を目指すという課題を中心としていましたが、最近では台風や豪雨などの気象災害も視野に入れた議論を行っています。本日も関東甲信や東海の広い範囲で大雨の警報や注意報が出されており、一部では土砂災害警戒情報も発表されています。土砂災害警戒情報が発表されている地域では、命に危険が及ぶような災害がいつ発生してもおかしくない状況ですので、くれぐれも注意していただきたいと思います。

ずっと申し上げているように、データの利活用により社会の防災力を高めることがわれわれの目的です。社会の防災力を高め、レジリエンス力を向上させることは、実は企業などが自分の組織の経済的価値を高めることにつながるということを、本日の議論を通じて皆さんと共有していきたいと思っています。本日のシンポジウムの第2部では、データ利活用について深い議論をしている二つの分科会からのご提案があるということで、その中で新しい未来の姿を垣間見ることができると期待しています。

これから Zoom 投票の機能などを使って双方向の議論を進めながら、皆さまにはぜひ最後までお楽しみいただきたいと思います。